

日本禁煙科学会 役員

(五十音順：敬称略)

理事長

高橋 裕子 奈良女子大学保健管理センター教授

副理事長

中村 清稲 長生会中村病院院長

理事

岩城 紀男 岩城内科医院院長

佐本 明 和歌山県議会事務局調査課課長

富永 典子 エア・ウォーター健康保険組合保健師

中川 利彦 弁護士 たばこ問題を考える会わかやま事務局

西村 周三 京都大学副学長（経済学）

野田 隆 のだ小児科医院院長

東山 明子 畿央大学健康科学部理学療法学科教授

三浦 秀史 慶応義塾大学 SFC 研究所上席所員

監事

丹羽 劭昭 奈良女子大学文学部名誉教授

菅野 進 株式会社北電子

評議員

金子 郁容 慶応義塾大学大学院教授

川村 孝 京都大学保健管理センター教授

瀧澤 弘隆 財団法人柏戸記念財団ポートスクエア柏戸クリニック

立身 政信 岩手大学保健管理センター教授

田村 良彦 読売新聞社医療情報部

寺川佐和子 奈良県看護協会

原 隆亮 和歌山県ヒカタ薬局

春木 宥子 松江記念病院健康支援センター産業医

安次嶺 馨 沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団ディレクター

日本禁煙科学会 会則

第1章 総則

第1条(名称)

本会は日本禁煙科学会という。

2. 本会の英文名は、The Japanese Association of Smoking Control Science (JASCS) とする

第2条(本部)

本会は事務局を理事会で定める場所におく。

第3条(支部)

本会は理事会の議決を経て、必要な地に支部をおくことができる。

第2章 目的及び事業

第4条(目的)

本会は禁煙及びこれに関連する諸分野の学術的研究の発達を図ることを目的とする。

第5条(事業)

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 禁煙に関する学術的研究や調査の奨励および業績の表彰
- (2) 学術総会、研究会、講習会などの開催と人材育成
- (3) 学会誌、ニュースレター、その他の出版物またはホームページ、その他の電子出版物の刊行およびそれらの知的所有権の保持
- (4) 禁煙啓発、禁煙支援、喫煙防止教育などの禁煙普及活動
- (5) 内外の関連学術諸団体、公的機関などとの連携および協力
- (6) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会員

第6条(会員)

本会の会員は、次の通りとする。

- (1) 正会員 本会の目的に賛同して入会した個人
- (2) 学生会員 本会の目的に賛同して入会した学生および生徒
- (3) 団体会員 本会の目的に賛同して本会に協賛する団体および企業

第7条(入会)

前条の会員として本会に入会を希望する者は、該当年度の会費および入会費を添えて所定の入会手続きをとらなければならない。

第8条(会員の権利)

本会の会員は、本会の行事に参加することができる。

第9条(会費)

会員は毎年3月末日までに、その年度の会費を納入しなければならない。

2. 既納の会費は返還しない。

第10条(退会)

本会の退会を希望する者は、所定の退会届を事務局に提出する。また本人が死亡し、又は会員たる法人が解散したときは退会したものとする。

第11条(除名)

本会の名誉を汚した者、会則や本会の目的に反する行為があった者または特別な理由なく引き続き2年以上会費を納入せぬ者は理事会の決議を経て除名することができる。

第4章 役員および事務局

第12条(役員)

本会には、次の役員をおく。

- 理事長…1名
- 副理事長…若干名
- 理事…6名以上30名以内
- 学術総会会長…1名
- 監事…2名

第13条(理事長)

理事長は、本会を代表し、会務を総理する。

2. 理事長は理事の互選によって選出する。
3. 理事長の任期は3年とし、重任を妨げない。

第14条(副理事長)

副理事長は理事長の会務を補佐する。

2. 副理事長は理事の中から理事長が指名する。
3. 理事長に事故のある場合、又は理事長が欠員となった場合は、理事長が予め指名した順序によって副理事長が理事長職務を代行する。
4. 副理事長の任期は3年とし、重任を妨げない。

第15条(理事)

理事は、理事会を組織し、会則及び総会の議決により会務を執行する。

2. 理事は、理事会が正会員の中から推薦し、総会の議決を経て選出する。但し理事長が必要と判断した場合は、理事長推薦理事を指名することができる。
3. 理事の任期は3年とし、重任を妨げない。
4. 理事が任期途中でやむを得ず辞任する場合は、理事長が後任理事を指名し、理事会の議決を経て就任させることができる。

第16条(学術総会会長)

学術総会会長は学術総会の開催を執行する。

2. 学術総会会長は理事会で選出する。
3. 学術総会会長の任期は担当する学術総会終了までとする。

第17条(監事)

監事は、本会の業務および会計を監査し、総会において監査結果を報告する。

2. 監事および監事補欠は理事会において推薦し、会員総会で承認を受ける。
3. 監事は本会の財務を監査するため、理事会他の会議に出席できるが議決には加わらない。
4. 監事の任期は5年とし、重任を妨げない。
5. 監事が任期途中で辞任した場合、監事補欠の中から理事長が指名して選出する。

第18条(解任)

役員が次の各号の一に該当するときは、理事会の在籍理事数の4分の3以上の議決によりこれを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の執行に堪えられないと認められるとき
- (2) 業務上の義務違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき、または本会の目的に違反する行為のあったとき

第19条(役員報酬)

役員は無報酬とする。但し、会務のために要した費用は支弁することができる。

第20条(会務理事)

理事長は、必要な場合、会務の一部を担当する会務理事を委嘱することができる。

2. 会務理事は、理事会の議決を経て有給とすることができる。

第21条(事務局)

事務局は、本会の事務を処理する。

2. 事務局には、事務局長および必要に応じて職員をおく。
3. 理事長は事務局長および職員を、理事会の決議を経て有給にて雇用することができる。
4. 前条の有給の会務理事および事務局、職員の雇用条件および雇用に関する諸規則は必要に応じて理事長が別途定める。

第22条(事務局長)

事務局長は理事長の命を受け、本会の事務を監理する。

第5章 評議員および顧問

第23条(評議員)

理事長は理事会の同意を経て評議員を委嘱することができる。

2. 評議員の任期は2年とし、重任を妨げない。

第24条(評議員会)

評議員は評議員会を組織する。

2. 評議員会は理事長の諮問に応じて本会の重要事項に関して必要な諸活動を行う。

第25条(顧問等)

理事長は理事会の同意を経て顧問、特別顧問を委嘱することができる。

2. 顧問の任期は2年とし、重任を妨げない。特別顧問の任期は定めない。
3. 理事長は理事会の同意を経て名誉理事長、名誉会長を委嘱することができる。

第6章 会議

第26条(会議)

本会の会議は、会員総会と理事会とする。

第27条(理事会の招集)

理事会は毎年1回以上開催するものとし、理事長がこれを招集する。

2. 在籍理事の3分の2以上が理事会の付すべき議題を示し招集を要請する場合は、理事長は90日以内に理事会を開催しなければならない。

第28条(理事会)

理事会は、会務の執行について議決を行う。

2. 理事会の議長は理事長とする。
3. 理事会は委任状を含み在籍理事の過半数の出席をもって成立する。
4. 理事会の議事は会則に定められる事項を除き、出席理事の過半数の賛同をもって議決する。但し賛成反対同数の場合は議長の判断で議決とする。

第29条(総会)

本会の会員総会は通常会員総会と臨時会員総会よりなる。

第30条(招集)

通常会員総会は毎年1回以上開催するものとし、理事長がこれを招集する。

2. 在籍会員数の5分の1以上が会議に付議すべき事項を示し請求のあった場合は、請求のあった日から90日以内に臨時会員総会を招集しなければならない。
3. 理事長は開催7日以前に、その会議に付議すべき事項、日時及び場所を記載した書面をもって会員に会員総会開催を通知する。通知は電子メールや郵送による。

第31条(会員総会議長)

会員総会の議長は出席した正会員の中から理事長が指名する。

第32条(議決)

- 会員総会の議事は会則に定められる事項を除き、出席した正会員の過半数の賛同をもって議決する。但し賛成反対同数の場合は議長の判断で議決とする。

2. 総会では次の報告事項およびその他議題に付す事項を議決する。

- (1) 事業計画および収支予算についての事項
- (2) 事業報告および収支決算についての事項
- (3) その他理事会において報告が必要と認められた事項

第33条(議決の通知)

会員総会の議決は会員に公開する。

第34条(議事録)

会員総会の議事録は議長が作成し、議長及び議長の指名した議事録署名人2名が署名捺印の上これを保存する。

第7章 学術総会

第35条(学術総会)

学術総会は年1回以上、学術総会会長が理事会の決議を受け開催する。

第8章 事業組織

第36条(地方部会)

本会の事業の円滑な実施を確保するため理事長は理事会の同意を得て、地方部会を設けることができる。

第37条(委員会、研究会、分科会)

本会の目的達成のため理事長は理事会の同意を得て事業組織として、委員会、研究会、分科会を設けることができる。

第9章 財産および会計

第38条(財産)

本会の財産は理事長が管理し、その方法は、会員総会及び理事会の決するところに従う。

第39条(予算)

本会の事業計画およびそれに伴う収支予算は毎年度開始前に理事長が編成し、会員総会の承認を受けなければならない。

- 2. 事業年度開始前に予算が成立しない場合理事長は、予算成立の日まで前年度に準じ収入、支出をすることができる。
- 3. 事業計画および収支予算を変更した場合は会員総会の承認を受けなければならない。

第40条(決算)

本会の収支決算は、毎会計年度終了後に理事長が作成し、監事の意見をつけ、会員総会の承認を受けなければならない。

第41条(会計年度)

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

第10章 会則の変更ならびに解散

第42条(会則の変更)

この会則は、理事会および総会において、各々の出席正会員4分の3以上の決議により変更できる。

第43条(解散)

本会の解散は、理事会および総会において、各々出席正会員の4分の3以上の決議を経なければならない。

第44条(残余財産)

本会の解散に伴う残余財産は、理事会および総会の議決を経て、本会の目的に類似の目的を有する公益事業に寄付するものとする。

第11章 細則

第45条(細則)

この会則の施行に必要な細則は、理事会の議決を経て理事長が別に定める。

2. 本会則または別途定める細則のない事項については、その都度、理事長の決定による。

補 足

1. 本会則は、平成18年5月27日制定し、平成19年6月17日第1回改定、平成21年10月25日第2回改定して即日実施する。
2. 本会設立当初の役員は別表通りとし、その任期は平成22年12月31日までとする。
3. 本会設立当時の会費は次の通りとする。
 - (1) 正会員 入会金5,000円、年会費5,000円
 - (2) 学生会員 入会金・年会費ともに無料
 - (3) 団体会員 入会金10,000円、年会費10,000円
4. 本会設立時の事務局は下記に設置する。

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学 保健管理センター内
5. 別に定める細則他
 - (1) 入会・退会規則
 - (2) その他理事長が必要と認めるもの

第6回 日本禁煙科学会実行委員会名簿

名誉会長	宮城征四郎	群星沖縄臨床研修センター長
顧問	宮城 信雄	沖縄県医師会長
顧問	藤田 次郎	琉球大学第一内科教授
学会長	安次嶺 馨	沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団ディレクター
実行委員長	譜久山 民子	沖縄県南部福祉保健所所長
副実行委員長	永吉 奈央子	徳山クリニック副院長
事務局長	笠原 大吾	沖縄県薬剤師会理事
実行委員	大山 朝賢	沖縄県医師会常任理事
	源河 圭一郎	介護老人保健施設 オリーブ園施設長
	加藤 進作	沖縄県歯科医師会理事
	国吉 秀樹	沖縄県福祉保健部 健康増進課長
	金城 芳秀	沖縄県立看護大学教授 学生部長
	安次富利恵子	沖縄県教育庁保健体育課指導主事
	大城 洋子	沖縄県看護協会助産師職能委員
	浜端 宏英	アワセ第一医院副院長
	田名 毅	首里城下町クリニック第一・第二理事長
	富名腰 義裕	海邦病院小児科部長
	渡辺 幸代	沖縄県総合保健協会内科医
	玉城 仁	沖縄県立中部病院呼吸器科医長
	上原 弘行	うえはら小児科医院院長
	城所 望	石垣市健康福祉センター医師
	上原 真里子	沖縄県中央保健所長
	島袋 郁子	おさむファミリー歯科クリニック
	松本 久美子	沖縄県総合保健協会保健師
	我喜屋 美香	糸数病院薬剤師
	向井 三穂子	沖縄県立中部病外来看護師
	大城 恭子	沖縄県学校薬剤師会副会長
	余座 由佳利	沖縄エアポートサービス(株) 健康管理室 看護師
	高波 和広	沖縄県小児保健協会
沖縄事務局	伊地 矢津子	沖縄スパアカデミー
	金城 時子	沖縄スパアカデミー
学会本部	高橋 裕子	日本禁煙科学会理事長 奈良女子大学教授
	三浦 秀史	日本禁煙科学会理事 禁煙マラソン事務局長

MEMO

共催・後援団体／協賛団体・企業一覧

(50音順)

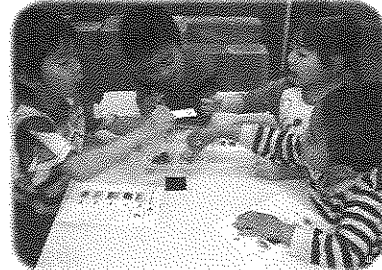
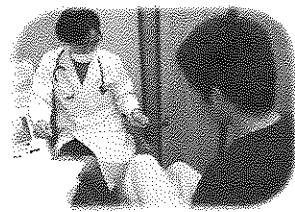
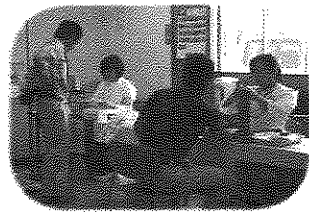
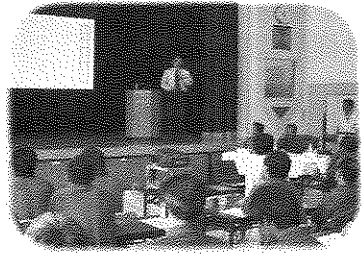
共 催 沖縄県医師会／社団法人沖縄県小児保健協会／社団法人沖縄県薬剤師会

後 援 沖縄県／沖縄県教育委員会／沖縄県立看護大学／財団法人沖縄県公衆衛生協会
財団法人沖縄県総合保健協会／社団法人沖縄県栄養士会／社団法人沖縄県看護協会
社団法人沖縄県歯科医師会／那覇市医師会／沖縄県小児科医会

協 賛

アットアロマ株式会社	ぎのわん健康支援センターがじまる薬局
いは薬局	ぎのわん健康支援センターがねこ薬局
医療法人愛和会あいわクリニック	財団法人沖縄県総合保健協会
医療法人麻の会首里城下町クリニック第一・第二	社会医療法人仁愛会浦添総合病院
医療法人球陽会海邦病院	社団法人日本健康倶楽部沖縄支部
医療法人真徳会あがりはまクリニック	セティ株式会社
医療法人真徳会沖縄メディカル病院	特定医療法人沖縄徳州会南部徳州会病院
医療法人清心会徳山クリニック	なかそね和 内科
医療法人太陽会かりまた内科医院	仲本内科
医療法人 HSR 名嘉村クリニック	日本光電工業株式会社／原田産業株式会社
医療法人陽和会南山病院	ノバルティスファーマ株式会社
浦西医院	ファイザー株式会社／株式会社協和企画
きなクリニック	富士化学工業株式会社
社会医療法人敬愛会（中頭病院・ちばなクリニック）	山城消化器内科医院
グラクソ・スミスクライン株式会社／大正製薬株式会社	

支援します！ 心と体の健康づくり



社団法人 **日本健康倶楽部** 沖縄支部

▶ 厚生労働省許可 全国21支部 ◀

- ◆(社)全国労働衛生団体連合会総合精度管理事業参加機関 ◆労災保険二次健診等給付医療機関
- ◆中央労働災害防止協会名簿登録機関 ◆協会けんぽ生活習慣病予防健診実施機関

■事業内容■

- 職場一般・特殊健診(有機溶剤・じん肺・特定化学物質) ●労災二次健診 ●学童(園児・児童)検診 ●特定健診・保健指導
- 健康教室・各種セミナー ●VDT・骨強度測定・動脈硬化検査 ●糞便検査 ●幼児向け食育(講話・食育プログラム)

沖縄市登川3169番地 TEL 098-939-4026 FAX 098-939-9388
ホームページ http://www.otc.ne.jp/knk_oki/ 食育ブログ <http://kenkoclub.ti-da.net/>



(社)日本健康倶楽部は財団法人日本情報処理開発協会(JIPDEC)の承認により2008年8月20日付でプライバシーマークの付与認定を受けました。



名嘉村クリニック

医師：名嘉村博・大浜篤・當山和代・幸喜毅・玉城祥乃・岡田達夫・宮城裕子・吉田恭子

【診療科目】一般内科・呼吸器科・糖尿病・甲状腺・循環器

【専門外来】いびき・不眠症・睡眠時無呼吸症候群・睡眠リズム障害
せき・気管支喘息・肺気腫・禁煙外来・勃起障害

〒901-2132 浦添市伊祖4-2-1 (浦添市運動公園通り入り口)

TEL : 098-870-6600 <http://nsleep.com>

在宅ケアセンター(名嘉村クリニック向)

浦添訪問看護ステーション伊祖、ケアプランセンターいそ

〒901-2132 浦添市伊祖1-32-2 TEL : 098-870-8020

働くみなさまの健康づくりをお手伝いします

労働衛生サービス機能評価機構認定機関

財団法人 沖縄県総合保健協会

Okinawa General Health Service Association

〒901-1192 南風原町字宮平2 1 2 番地 TEL : (098)889-6474 FAX : (098)889-6463

宮古支所 〒906-0007 平良市字東仲宗根 491 TEL : (0980)72-4982 FAX : (0980)72-4921

八重山支所 〒907-0003 石垣市字平得 128-1 TEL : (0980)82-2609 FAX : (0980)82-2618

- 業務内容 人間ドック／脳ドック／アンチエイジングドック／労災二次健康診断
政府管掌健康保険生活習慣病予防健康診断／定期健康診断／職業病検診
生活習慣病健診／がん検診／結核検診／骨粗鬆症検査／寄生虫・腸内細菌検査
先天性代謝異常検査／肥満教室／禁煙教室／生活習慣病予防外来

各種ドックのお申込・お問い合わせは 直通番号(098)889-6792へ

医療法人 真徳会

沖縄メディカル病院

禁煙外来（禁煙治療担当医長）宮国孝彦・當山雅樹

介護老人保健施設 真徳苑（併設）

南城市佐敷新開1番地344（新開球場前）TEL947-3555

沖縄メディカルデイサービスセンター（別館）

南城市佐敷新開1番地11・12（しんかいSS裏）TEL947-0377

医療法人 真徳会

あがりはまクリニック

院長 湧上 民雄

診療科目：内科・糖尿病外来・禁煙外来・甲状腺外来・生活習慣病

～モットー～：患者様の意見をしっかりと聞き

わかりやすく説明し納得していただく。～

●受付時間：午前8:30～12:00 午後1:30～5:30

●診療時間：午前9:00～12:30 午後2:00～6:00

●休診：第2土曜日午後・日曜日・祭日・年末年始

与那原町東浜68-1-2（マリンプラザあがりはま内）TEL882-0020



医療法人 真徳会

首里城下町クリニック

SHURI JOKAMACHI CLINIC

内科 高血圧・脂質異常症・糖尿病・腎臓病
リウマチ・膠原病・循環器科・血液透析

医師 田名 毅 比嘉 啓

第一クリニック

第二クリニック

TEL:098-885-5000

TEL:098-833-1001

FAX:098-885-5007

FAX:098-833-1006

ホームページ <http://www.shuri-jc.jp>

仲本内科

院長 仲本 昌一

〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅3丁目15番3号

TEL:098-860-1835 FAX:098-860-1869

与儀小学校
正門前

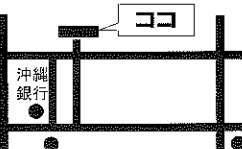
日曜・祝日 休診

診療時間	月	火	水	木	金	土
AM9:00～12:00	●	●	●	●	●	●
PM2:00～6:00	●	●	●	1:00 まで	●	3:00 まで



山城消化器内科医院

禁煙指導



医師 山城 雄二

TEL (098) 832-3055

与儀小学校

与儀公園

那覇市樋川1-18-22

院外処方せん
私のかかりつけ薬局

いは薬局

薬剤師 崎山・蒔

〒904-1115 うるま市石川伊波428-5

TEL. 098-965-6767

FAX. 098-964-5411



(医)愛和会

あいわクリニック 小児科・内科

院長 比嘉 睦

西原町字池田 766-2

TEL 946-5558



社会医療法人

仁愛会

浦添総合病院

地域医療
支援病院

- ・救命救急センター・沖縄県ドクターヘリ
- ・臨床研修指定病院・へき地医療拠点病院

禁煙外来開設中

沖縄県浦添市伊祖四丁目16番1号

TEL (098) 878-0231 (代表) / FAX (098) 877-2518

なかそね和 内科

肝臓病、内科全般、セカンドオピニオン

仲宗根 和則

那覇市松川47

TEL (098) 887-1086



医療法人
清心会

徳山クリニック



QAD70652



EAD60016



111080431

院長 徳山清之 副院長 永吉奈央子

内科・リウマチ科・循環器内科・人工透析内科

浦添市牧港2-46-12(メディカルプラザ牧港1・2階)

TEL(098)942-1001 FAX(098)942-1414

海邦病院グループ



KAIHO

医療法人 海邦病院 浦添海邦病院

898-2111

878-8787



グランドホーム

ポート・ヒロック

0120-87-1809

かいほう

出産助産ステーション・加齢介護ステーション

898-2172

施設型在宅介護事業所・認知症対応地域包括支援センター



特定医療法人 沖縄徳洲会

南部徳洲会病院

八重瀬町中外171番地1 TEL (098) 945-2221

院長 徳田 虎雄
副院長 日吉 泰博

精神科・心療内科・禁煙指導

医療法人 陽和会

南山病院

日本医療機能評価機構認定病院

禁煙指導・不眠症・うつ・アルコール依存症・物忘れの健康相談

診療時間 月～土 AM9:30～12:00 PM1:00～4:00
休診日 土日祝日

糸満市宇留敷406-1 http://www.nanzan.or.jp/

☎ (098) 994-3660-3661

一般社団法人

ぎのわん健康支援センター



がねこ薬局

〒901-2214

沖縄県宜野湾市我如古 3丁目8番8号

TEL (098)942-2888

FAX (098)942-2885



一般社団法人

ぎのわん健康支援センター

がじまる薬局

〒903-0103

沖縄県西原町字小那覇 1602-1

TEL (098) 835-8800

FAX (098) 835-8193

社会医療法人 敬愛会

N 中頭病院

病院長 宮里 善次

〒904-2195 沖縄市知花6丁目25番5号

☎(098)939-1300(代)

ちばなクリニック Chibana Clinic

院長 仲田 清剛

〒904-2143 沖縄市知花6丁目25番15号

☎(098)939-1301(代)



禁煙にチャレンジしてみませんか?

禁煙支援外来(予約制)

医療法人 太陽会

 **かりまた内科医院**

院長 狩俣 陽一

沖縄県浦添市内間4-23-21

電話(098)878-5126

浦西医院

〔内科・小児科・皮膚科・外科〕

院長 仲間 清太郎

〒901-2204 浦添市当山二丁目九番三号
電話(098)878-1770
FAX(098)878-1777
E-mail:uramishi@royal.ocn.ne.jp

MEMO



医療関係者向け会員制サイト
pfizerPRO (www.pfizerpro.jp)

禁煙治療に関する情報をご提供しています。

禁煙治療宣言

ニコチンを含まない経口剤が禁煙治療を変える

α4β2ニコチン受容体部分作動薬(禁煙補助薬) 薬価基準収載

チャンピックス錠 0.5mg
1mg

バレニクリン酒石酸塩錠 (劇薬) 処方せん医薬品: 注意-医師等の処方せんにより使用すること

【警告】

禁煙は治療の有無を問わず様々な症状を伴うことが報告されており、基礎疾患として有している精神疾患の悪化を伴うことがある。本剤との因果関係は明らかではないが、抑うつ気分、不安、焦燥、興奮、行動又は思考の変化、精神障害、気分変動、攻撃的行動、敵意、自殺念慮及び自殺が報告されているため、本剤を投与する際には患者の状態を十分に観察すること【重要な基本的注意】の項参照。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

ニコチン依存症の喫煙者に対する禁煙の補助

【効能・効果に関連する使用上の注意】

(1)ニコチン依存症の診断については、ニコチン依存症に係わるスクリーニングテスト(TDS)により診断すること。(2)本剤の使用にあたっては、患者に禁煙意志があることを確認すること。

【用法・用量】

通常、成人にはバレニクリンとして第1~3日目は0.5mgを1日1回食後に経口投与、第4~7日目は0.5mgを1日2回朝夕食後に経口投与、第8日目以降は1mgを1日2回朝夕食後に経口投与する。なお、本剤の投与期間は12週間とする。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

(1)本剤は原則として、他の禁煙補助薬と併用しないこと。[本剤の有効性及び安全性は単剤投与により確認されており、他の禁煙補助薬と併用した際の有効性は検討されておらず、安全性についても経皮吸収ニコチン製剤との併用時に副作用発現率の上昇が認められている(「薬物動態」の項参照)。](2)患者が禁煙を開始する日を設定すること。その日から1週間前に本剤の投与を始めること。(3)本剤による12週間の禁煙治療により禁煙に成功した患者に対して、長期間の禁煙をより確実にするために、必要に応じ、本剤をさらに延長して投与することができる。その場合にはバレニクリンとして1mgを1日2回、朝夕食後に12週間投与すること。[「臨床成績」の項参照](4)最初の12週間の投与期間中に禁煙に成功しなかった患者や投与終了後に再喫煙した患者で、再度本剤を用いた禁煙治療を実施する場合には、過去の禁煙失敗の要因を明らかにし、それらの要因への対処を行った後のみに、本剤の投与を開始すること。(5)本剤の忍容性に問題がある場合には、0.5mg1日2回に減量することができる。(6)重度の腎機能障害患者(クレアチニンクリアランス推定値:30mL/分未満)の場合、0.5mg1日1回で投与を開始し、その後必要に応じ、最大0.5mg1日2回に増量すること。[「薬物動態」の項参照]

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1)統合失調症、双極性障害、うつ病等の精神疾患のある患者[精神症状を悪化させることが

ある。](2)重度の腎機能障害のある患者[重度の腎機能障害のある患者では血中濃度が高くなるおそれがある(「用法・用量に関連する使用上の注意」、「相互作用」及び「薬物動態」の項参照)。](3)血液透析を受けている患者[十分な使用経験がないため、本剤を投与する際には十分に観察を行うこと(「薬物動態」の項参照)。]

2. 重要な基本的注意

(1)医師等により、禁煙治療プログラムに基づいた指導の下に本剤を適切に使用すること。(2)禁煙は治療の有無を問わず様々な症状(不快、抑うつ気分、不眠、いらだたしさ、欲求不満、怒り、不安、集中困難、落ち着きのなさ、心拍数の減少、食欲増加、体重増加等)を伴うことが報告されており、基礎疾患として有している精神疾患の悪化を伴うことがある。(3)抑うつ気分、不安、焦燥、興奮、行動又は思考の変化、精神障害、気分変動、攻撃的行動、敵意、自殺念慮及び自殺が報告されている。本剤との因果関係は明らかではないが、これらの症状があらわれることがあるので、本剤を投与する際には患者の状態を十分に観察すること。なお、本剤中止後もこれらの症状があらわれることがある。また、これらの症状・行動があらわれた場合には本剤の服用を中止し、速やかに医師等に連絡するよう患者に指導すること。(4)めまい、傾眠、意識障害等があらわれ、自動車事故に至った例も報告されているので、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること。[「副作用」の項参照](5)本剤の投与の有無にかかわらず、禁煙により生じる生理的な変化のため、下記のような薬剤の薬物動態や薬力学が変化し、用量調節が必要になる場合がある。テオフィリン、ワルファリン、インスリン等 また、喫煙によりCYP1A2の活性が誘導されるため、禁煙を開始後、CYP1A2の基質となる薬剤の血漿濃度が上昇する可能性がある。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること) シメチジン

4. 副作用

国内後期第Ⅱ相用量反応試験、国内再投与試験、外国後期第Ⅱ相用量反応試験、外国第Ⅲ相比較検証試験及び外国禁煙維持療法試験において、本剤0.25、0.5及び1mgを1日2回投与された安全性評価対象例3,627例中2,415例(66.6%)に副作用が認められた。主な副作用は、嘔気1,033例(28.5%)、不眠症591例(16.3%)、異常な夢472例(13.0%)、頭痛419例(11.6%)及び眩暈302例(8.3%)であった。(承認時までの調査の集計)

次のような副作用が認められた場合には、必要に応じ、減量、投与中止等の適切な処置を行うこと。(1)重大な副作用 1)皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、多形紅斑(いずれも頻度不明[※]):皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、多形紅斑等があらわれることがあるので、皮疹等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。2)血管浮腫(頻度不明[※]):顔面、舌、口唇、咽喉、喉頭等の腫脹を症状とする血管浮腫があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。3)意識障害(頻度不明[※]):意識レベルの低下、意識消失等の意識障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

注:自発報告のため頻度不明

●その他の使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先: 製品情報センター

2011年7月作成

醫師會館



抄録集修正箇所についてのお知らせ

P13 (修正)

(修正前) 招待講演 2 (県民公開講座) 11月27日(日) 15:00~16:30 沖縄県医師会館

↓

(修正後) 招待講演 2 (県民公開講座) 11月27日(日) 13:00~14:30 沖縄小児保健センター

P74 (挿入)

別紙の、指定討論 島井哲志先生の抄録を、講演 3 山野洋一先生の抄録の後に挿入してください。

P95 (差し替え)

松本久美子先生の抄録(35 当協会における禁煙支援の現状と課題)を別紙のものと差し替えてください。

関係各位にご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

35 当協会における禁煙支援の現状と課題

○松本 久美子¹⁾、具志堅 綾子²⁾、根間 広子³⁾、大城 喜一郎⁴⁾、渡辺 幸代⁵⁾、宮城 めぐみ⁶⁾、比嘉 政昭⁷⁾、金城 幸善⁸⁾

1) 沖縄県総合保健協会

【目的】

喫煙は全身のあらゆるがんや心・脳血管疾患の発症に関与していると言われている。沖縄県の死因状況をみると、全国同様がん、心疾患、脳血管疾患の順で高く、特に気管支・肺がんの死亡率は上位である。その現状に鑑み、当協会では平成14年度から禁煙治療を開始し今年度で10年目を迎えた。これまで実施してきた禁煙支援を振り返り、今後の支援のあり方等を検討したので報告する。

【対象・方法】

1. 平成14年7月～平成23年3月までの禁煙外来受診者274名の受診状況や禁煙成功率等をまとめた。
2. 平成14年7月～平成22年7月までの禁煙外来受診者250名のうち治療終了時点で禁煙に成功していた159名に対し、それぞれの治療終了後3ヶ月、9ヶ月の禁煙継続の状況を電話等にて調査した。

【結果】

1. 受診者の男女別内訳は男性221名(80.7%)、女性53名(19.3%)であり、平均年齢は50.8歳(男性55.2歳、女性45.1歳)であった。禁煙治療を5回全て終了した患者の成功率は127名で84.7%(男性:108名で84.4%、女性:19名で86.4%)であった。
2. 禁煙治療終了時点で禁煙に成功していた159名(男性:134名、女性:25名)中、治療終了後3ヶ月143名(男性:120名、女性:23名)、9ヶ月128名(男性:109名、女性:19名)の有効回答を得た。治療終了後3ヶ月の継続率は126名で79.2%(男性:104名で77.6%、女性:22名で88.0%)、9ヶ月後の継続率は95名で59.7%(男性:78名で58.2%、女性:17名で68.0%)であった。

【考察】

当協会における禁煙治療終了時の禁煙成功率は比較的高いが、禁煙継続率は治療終了後3ヶ月、9ヶ月の経過とともに低下している。今後は、治療終了者向けの禁煙マラソンの活用や、現在行っている禁煙同窓会の充実など、治療終了者が当協会における禁煙治療終了時の禁煙成功率は比較的高いが、禁煙継続率は治療終了後3ヶ月、9ヶ月の経過とともに低下している。今後は、治療終了者向けの禁煙マラソンの活用や、現在行っている禁煙同窓会の充実など、治療終了者が禁煙を長く継続できるような支援を検討していきたい。

指定討論

ポジティブ心理学からの提案

島井哲志

日本赤十字豊田看護大学

ポジティブ心理学は、実質的に 21 世紀になってから展開されてきたので、禁煙マラソンよりも短い歴史しかありません。しかし、最近では、国際学会が組織され、学術雑誌も刊行され、多くの書籍も発行されるなど、きわめて盛んになってきた心理学の研究・実践領域です。その特徴は、人間のこころのポジティブな側面に注目し、その働きの基礎的研究や、それをういた応用実践に取り組んでいることにあります。

特に、最近の傾向としては、臨床的な応用が注目されています。20 世紀に開発され有効性が示されてきた認知行動療法も、不適切な思考や行動に焦点を当てて、それを修正することをめざしてきました。一方、ポジティブ心理学による臨床実践は、さまざまな状態にある人のポジティブなこころの側面である強みを引き出すことで、弱いところを補い、よりよい人生と生活とを実現することをめざしています。

このポジティブ心理学を用いた禁煙の試みは、国際的には、まだ報告されていません。私の知っている唯一の例は「禁煙とは、人生を前向きにしてぐいぐいと良い方に変えていくすばらしいツールです」という高橋先生による「ポジティブ禁煙」です。そこでは、「禁煙とは生き方がポジティブになること」とされています。そこで、このポジティブ禁煙が、さらに強固なものになって行くために、ふたつの提案をしたいと思います。

第 1 は、禁煙にあたって、ポジティブな気分の比率をあげるように努めることです。ポジティブな気分がネガティブな気分の 3 倍あれば、いろいろな方法を思いつくことができ、考え方も柔軟になり、さらにポジティブな気分が生み出されます。

第 2 は、それぞれの得意な強みを使うことです。誰かのためになることをしたいと願っている人はそれを用いて、コツコツ努力することが得意な人はそれを用いて禁煙を実現することができます。



日本禁煙科学会 学会賞

日野原 重明 先生

記念講演：健やかな長寿のための禁煙、その他の心がけ

2011年11月26日 13:00~13:50

表彰式：2011年11月26日 13:50 沖縄小児保健センター



略歴

明治44年10月	山口県生まれ
昭和12年	京都大学医学部卒業
昭和17年	京都大学大学院（医学）修了
昭和26年	米国エモリー大学に一年間留学
	そののち、聖路加国際病院内科医長、同病院院長代理、院長を歴任
現職	
昭和48年4月	(財) ライフ・プランニング・センター理事長
平成8年3月	(財) 聖路加国際病院 理事長

平成8年7月 聖路加国際病院 名誉院長
平成8年11月 (財) 聖ルカ・ライフ・サイエンス研究所理事長
平成10年4月 聖路加看護大学名誉学長

経歴

昭和59年10月～昭和61年7月 国際内科学会 (会長)
昭和61年4月10日 アメリカ内科学会名誉フェロー (HF.A.C.P.)
平成4年11月10日 ニューヨーク・アカデミー・オブ・サイエンス会員
平成4年4月～平成8年6月 聖路加国際病院院長
昭和49年2月～平成10年3月 聖路加看護大学学長

賞罰

昭和57年11月1日 最高優功賞 (日本医師会)
昭和60年3月27日 日米医学科学者賞 (フィラデルフィア医師会)
平成4年3月31日 第8回東京都文化賞受賞
平成5年4月29日 勲二等瑞宝章を受く
平成10年10月9日 客員教授 (ハーバード大学)
(The Okinaga Harvard Visiting Professorship)
平成15年2月13日 朝日社会福祉賞 (朝日新聞社)
平成17年11月3日 文化勲章受章

著書

医学・医療関係

1. 私の歩んだ道—内科医六十年 (上)— 岩波書店、1995
2. 現代医療への提言—内科医六十年 (下)— 岩波書店、1995
3. 医の道を求めて—ウィリアム・オスラー卿の生涯に学ぶ— 医学書院、1993
4. 現代医学と宗教 岩波書店 (叢書・現代宗教第9巻)、1997 (絶版)

一般書

1. 「新老人」を生きる 光文社 2001
2. 「生きかた上手」 ユーリーグ 2001.12.
3. 「人生百年 私の工夫」 幻冬舎 2001.7.
4. 「人生改造 生活習慣病を防ぐ本」 幻冬社 2002.10.
5. 「100歳になるための100の方法」 文芸春秋 2004.1.30
6. 「いのちのバトン—97歳の僕から君たちへ」 ダイヤモンド社 2008.11.28

その他. 多数